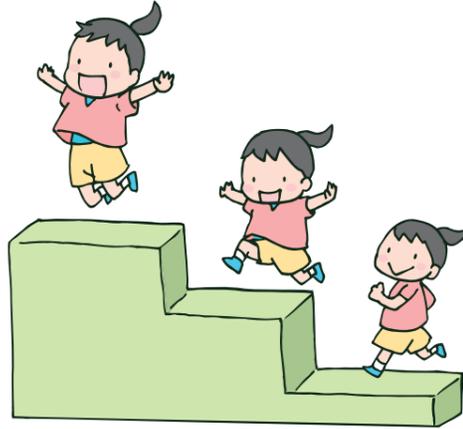


## 校内の体制づくり

### (1) キャリア教育の視点で全体計画、年間指導計画を見直しましょう。

キャリア教育は、特定の活動や指導方法に限定されるものではなく、様々な教育活動を通して実践されるものという考え方に立ち、既存の教育活動をキャリア教育の視点でとらえ直すことが求められます。加えて、各学校の全体計画、年間指導計画についても、キャリア教育の視点で見直す必要があります。

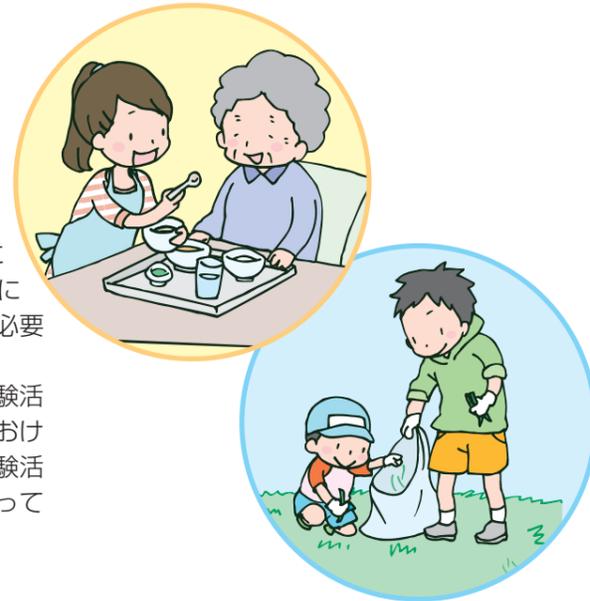


### (2) 研修の充実を図りましょう。

キャリア教育を学校の教育活動全体を通して推進するためには、自校において、キャリア教育担当教員を中心とした組織づくりと、各学校の実態に応じたより具体的な指導方法等に関する研修の機会を設けることが必要です。

## 体験活動の充実

体験活動は、自信や自己有用感の獲得、働くことや学ぶことへの意欲の向上など様々な効果が期待されます。より高い教育的効果を得るためには、それぞれの体験活動を一過性のものに終わらせることなく、キャリア教育の視点から、ねらいを明確にし、他の教育活動と関連付け、事前指導・事後指導を工夫する必要があります。



キャリア教育の視点からは、特に「職場や就業にかかわる体験活動」が重要な意味を持つこととなりますが、その際、中学校における職場体験活動と高等学校におけるインターンシップ（就業体験活動）など、各学校段階において、体験活動の意義や内容は異なってくることに留意しなければなりません。

### ◆本指針策定の趣旨

「青森県教育委員会キャリア教育の指針」は、県教育委員会におけるキャリア教育のとらえ方を明らかにした上で、各学校や地域、家庭でキャリア教育を展開していく際の考え方や進め方について示すものです。

雇用・就業状況が大変厳しい状況にある昨今、学校から職業への移行が円滑に行われていないという問題が指摘されています。また、学校や家庭、地域での学びは、より根本的な「生きること」や「生き方」と密接にかかわっていることが大切です。

このような中で、一人一人が「生きる力」を身に付け、しっかりとした勤労観・職業観を形成し、将来直面するであろう様々な課題に柔軟かつたくましく対応する力、社会人・職業人として自立するために必要な力を培うことが、我が国の社会全体の重要な課題となっています。

そのような力を意識的に培っていく教育がキャリア教育です。

この指針の全体を貫くキーワードとして掲げられるのは、「人とのかかわり」と「体験活動」です。これらを通して、「生きること」「働くこと」「学ぶこと」が、相互につながっていること、また、時には重なるものであることを、子どもたちに感じ取ってほしいと願うものです。

このリーフレットの「本体」である「青森県教育委員会キャリア教育の指針〈総論編〉」は、各学校に1冊ずつ配付しています。また、青森県教育委員会のホームページ (<http://www.pref.aomori.lg.jp/bunka/education/main.html>) から閲覧及びダウンロードできますので、そちらも併せて御活用ください。

なお、県教育委員会では、平成25年度に〈実践編〉を作成することとしており、〈総論編〉についても、その際改めて見直しをする予定です。

# 生きる・働く・学ぶをつなぐ

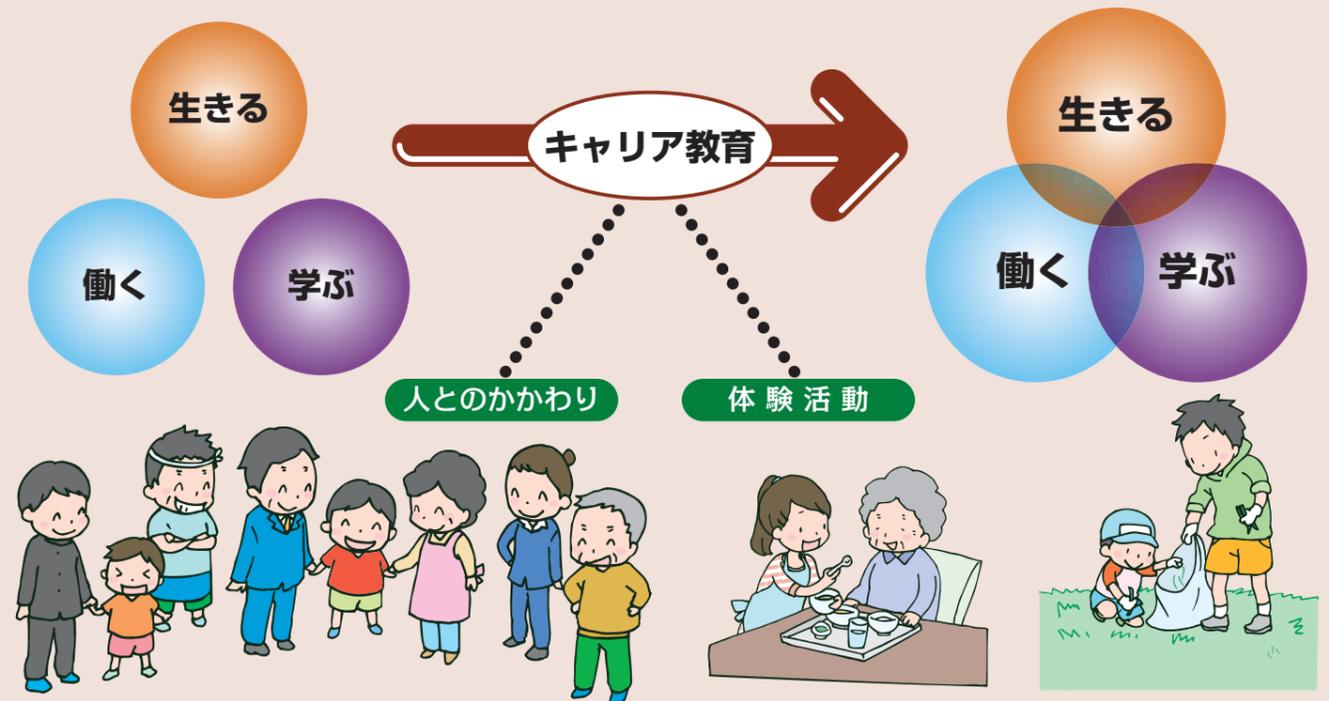
## 青森県教育委員会 キャリア教育の指針〈総論編〉

### キャリア教育って何? —青森県教育委員会のとらえ方

青森県の子どもたち一人一人の社会的・職業的自立に向け、郷土に愛着と誇りを持ち、チャレンジ精神あふれる人間として育つよう、必要な基盤となる資質、能力、態度を培うことを通して、キャリア発達を促す教育。

社会的・職業的自立に向け	キャリア教育は、「社会的・職業的自立」を目指すものです。
郷土に愛着と誇りを持ち	キャリア教育によって、郷土の姿を知り、郷土への愛着と誇りを持ち、それらを礎として自らの夢や志を育みます。
チャレンジ精神あふれる	キャリア教育によって、既存のものに満足せず、常に新しいことにチャレンジしようとする意欲を持ち、困難を恐れずにそれをやり遂げる人材を育てていきます。
キャリア発達を促す	「キャリア発達」とは、社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現していく過程のことです。キャリア教育は、このようなキャリア発達を促すものです。

キャリア教育による様々な人とのかかわりや多様な体験活動を通して、子どもたちは、「生きること」「働くこと」「学ぶこと」が相互につながっていること、また時には重なるものであると感じ取っていきます。



# キャリア教育で何を目指し、どのように進めたらいいのでしょうか？

（キャリア教育で培いたい資質、能力、態度を支える心）

自分自身を大切に思う気持ち	ふるさとを誇りに思う気持ち
---------------	---------------

誰かの役に立ちたい、誰かに必要とされているといった、他者の存在を前提として自分の存在価値を感じる気持ち。

郷土（青森県、自分の住む地域）のよさを知るとともに、他の地域・異なる文化との違いを知り、ふるさとを誇りに思う気持ち。

## キャリア教育で培いたい資質、能力、態度

自己を見つめる力	つながる力			動く／生かす力	創り出す力
	他者とつながる力	社会とつながる力	未来とつながる力		

自分自身を客観的・肯定的に見つめ、自分がしたいこと、できることを理解し、それに向かって自己をコントロールし、主体的に学んだり行動したりする力。

多様な他者の考えや立場を理解し、相手の意見を聴いて自分の考えを正確に伝える力。

自分の置かれている状況を受け止め、役割を果たしつつ他者と協力・協働して社会に参画し、今後の社会を積極的に形成していく力。

社会の中で「未来の自分」が果たすべき役割を考えた上で、生き方に関する様々な情報を適切に選択・活用しながら、自ら主体的に判断してキャリアを形成していく力。

仕事をする上での課題を発見・分析し、適切な計画を立ててその課題を処理し、解決する力。

自分や他者のよさを踏まえ、自らの経験や様々な情報等を総合的に活用し、新たな価値を生み出したり、仕組みを創り出したりする力。またそれを発信する力。

◎〈総論編〉本文では、上記の「キャリア教育で培いたい資質、能力、態度」の発達の段階ごとの具体例を掲載しています。

学年	自分自身を大切に思う気持ち	ふるさとを誇りに思う気持ち	自己を見つめる力	他者とつながる力	社会とつながる力	未来とつながる力
高2～高3	①自分自身のよさを認め、社会に必要とされていることを実感し、自分の存在価値を感じるように努める。	①ふるさとや地域のよさを認め、郷土愛や郷土意識を醸成し、誇りに思う気持ちを持つ。	①自分のよさを認め、自己肯定感を高める。	①多様な他者の考えや立場を理解し、相手の意見を聴く。	①自分の置かれている状況を受け止め、役割を果たす。	①社会の中で「未来の自分」が果たすべき役割を考えた上で、生き方に関する情報を適切に選択・活用する。
中2～高1	①自分自身のよさを認め、社会に必要とされていることを実感し、自分の存在価値を感じるように努める。	①ふるさとや地域のよさを認め、郷土愛や郷土意識を醸成し、誇りに思う気持ちを持つ。	①自分のよさを認め、自己肯定感を高める。	①多様な他者の考えや立場を理解し、相手の意見を聴く。	①自分の置かれている状況を受け止め、役割を果たす。	①社会の中で「未来の自分」が果たすべき役割を考えた上で、生き方に関する情報を適切に選択・活用する。
小5～中1	①自分自身のよさを認め、社会に必要とされていることを実感し、自分の存在価値を感じるように努める。	①ふるさとや地域のよさを認め、郷土愛や郷土意識を醸成し、誇りに思う気持ちを持つ。	①自分のよさを認め、自己肯定感を高める。	①多様な他者の考えや立場を理解し、相手の意見を聴く。	①自分の置かれている状況を受け止め、役割を果たす。	①社会の中で「未来の自分」が果たすべき役割を考えた上で、生き方に関する情報を適切に選択・活用する。

（〈総論編〉本文p.13より）

- 発達の段階の区分は、「縦の連携」を意識し、一部、あえて学校種間をまたがる設定としています。学校の実態に応じて、特に接続段階の児童生徒の実態を加味して、ご覧ください。
- ここで挙げられる「培いたい資質、能力、態度」は包括的な概念なので、これらを基本として学校や地域の特色、児童生徒の発達の段階に応じた工夫や焦点化を行い、各学校において具体の「培いたい資質、能力、態度」の設定を行っていく必要があります。
- 全ての能力を育成するのではなく、重点を定めて取り組んでいくことも重要です。ただし、常に評価と改善を意識する必要があります。

### Point 1

#### キャリア教育は、様々な教育活動全体を通じて取り組むものです。

中教審答申（H23）では、キャリア教育は、「特定の活動や指導方法に限定されるものではなく、様々な教育活動を通して実践される」ものであり、「それぞれの学校段階で行っている教科・科目等の教育活動全体を通じて取り組むもの」としています。職場体験活動、インターシップ、職業講話といった活動のみを実施すればよいということではありません。

キャリア教育は、決して「新しい教育の一分野」ではなく、「学校教育を構成していくための理念と方向性を示すもの」として、学校や教育の在り方を大きく変える可能性を持っています。

#### キャリア教育では、「大人の社会観」も問われます。

キャリア教育の展開に当たっては、大人が子どもたちに職業観・勤労観を伝えたり、あるいは社会的・職業的自立に向けて必要な力を示す時に、自らの職業観や、将来どのような社会を子どもたちに受け渡したいのかという社会観を持つ必要があります。

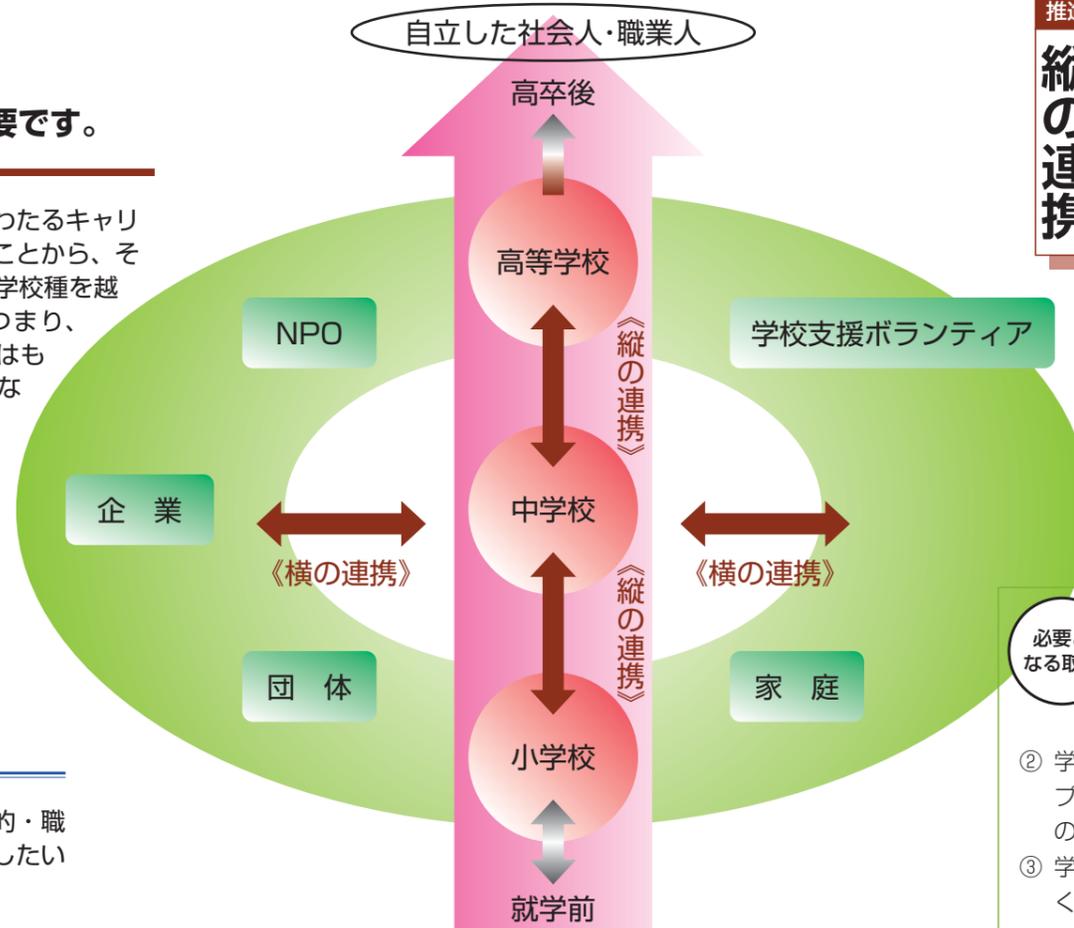
キャリア教育は、大人にとって自分の職業や社会に対する考え方を振り返る機会ともなります。

### Point 2

#### 「縦」と「横」の連携が必要です。

キャリア教育は、一人一人の生涯にわたるキャリア発達を見通して行われるものであることから、その展開の際には、小・中・高等学校の学校種を越えた「縦の連携」が求められます。つまり、児童生徒の発達の段階に応じ、学年間をもとより、学校種間の緊密な協力や円滑な接続が必要となります。

さらに、キャリア教育の展開に必要なとなるのは、社会の様々な教育力です。学校が、家庭や地域の企業、NPO等の関係機関と連携・協力すること、すなわち「横の連携」が求められます。



#### 推進方策 その1

#### 縦の連携

必要となる取組

- ① 各学校の教員が、異なる学校種の活動についてお互いに理解する。
- ② 学校種にまたがるような体系的な指導計画を作成し、お互いに共有する。
- ③ 児童生徒のキャリア発達に関する情報を次の学校段階に引き継いでいく。

#### 推進方策 その2

#### 横の連携

必要となる取組

- ① キャリア教育における家庭の役割を踏まえ、学校は家庭にキャリア教育の取組について情報提供し、理解・協力を求める。
- ② 学校と地域が連携したキャリア教育の2つのタイプ（「出前型」・「受入型」）の実践を通して、地域の多様な人とのかかわりを持たせる。
- ③ 学校と地域をつなぐ人材の育成と、連携の組織づくりを進める。